

## 5月30日の大阪市会本会議について

今さら言うまでもありませんが、女性の人権そして男性の人権をないがしろにする橋下市長の一連の発言は許し難いと思っております。

そのため、議会としては、正副議長が即座に抗議しましたし、公明党市会議員団としても29日に申し入れをしました。(30日付けの公明新聞2面に掲載されています)そこでは、市長の一連の発言に対する市民、特に女性の声を代弁し、憤懣やるかたない、許し難いみなさまの思いに対し、猛省し、謝罪すべきと申し入れました。市長は、持論をなかなかゆずらないものの、公明党の申し入れに対しては、市政の停滞への責任も含め、重く受け止め、市政に力を注ぐことを明言しました。

共産党は辞職勧告決議案を提出したいと考えていましたが、自民党も民主党系会派もそこまでの考えはなく、市長に猛省と責任の自覚を促すとの考えは一致していましたので、会派間で話し合った結果、決議案の文面は合意できました。その後、自民、民主系、公明党の幹事長と市長が話し合いの場をもち、内容はすべて受けいれられるものの、「問責決議」となると政治的には辞職を勧告されたも同然なので、問責の文言ははずしてほしいと懇願されました。本来、問責決議は辞職を要求するほどの強い意味はないものの、市長自身がそう受け止めてしまうならと、会派間で「問責」の文言をめぐって話し合いを続けましたが、意見が分かれ、公明会派のみタイトルを変えて独自の決議案を提出した次第です。

「橋下市長に対し猛省と責任の自覚を促す決議」(案)

みなさまから賛否両論、さまざまなご意見を頂戴していますが、公明党大阪市会議員団としましては、いたずらに市政を混乱させる事態は避けたいと思いますし、マスコミ主導のパフォーマンス政治とは一線を画して、ひたすら市民、国民のみなさまの利益を優先する政治を行う決意です。

橋下問責否決についての森田実氏の見解に脱帽 2013 年 06 月 03 日

森田実氏のブログより抜粋

こうした、きちんとした見解を示せる人がいないことが寂しい。

《いま日本国民として考えなければいけないことは、橋下徹大阪市長と政治家たちの従軍慰安婦問題、軍隊とセックスの問題に関する下品な議論を止めることです。橋下発言と慰安婦、風俗営業をめぐる大報道の結果なにが起きているのでしょうか。悪いことばかりです。

日本の政治家の品格の低劣さに世界中が辟易とし始めているのではないのでしょうか。

この下品な議論を続けることは日本人の評価を低めることになると思います。下品な議論は直ちにやめるべきだと思います。

橋下徹大阪市長への問責決議案が可決されて、7月21日に市長選挙が行われることになれば、この下品な議論が7月21日までまた続くことになります。そうなれば、日本の政治家だけでなく、日本人に対する世界の評価が下がってしまいます。私はこのことをいちばん心配しています。公明党（大阪）は、身内からの批判を含めて、多くの人々から非難されていますが、大阪市長選を止めたのはよかったのではないのでしょうか。公明党（大阪）は下品な議論が続くことを止めてくれたのだと私は考えます》